

衛研第2 - 16号  
平成29年 7月19日

感染症発生動向調査事業  
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。  
なお、今週は下記の内容を含んでいます。

記

1. 今週の県内情報
2. 今週の注目される定点把握対象疾患の推移（グラフ）
3. 注目すべき疾患（レジオネラ症）
4. 今週の全数把握対象疾患の報告数、累計
5. 結核の届出状況（月報）
6. 今週の定点把握対象疾患の報告患者数、定点当たり報告数
7. 全国及び関東情報
8. 今週の流行状況

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当  
電話 0493 - 59 - 9325  
FAX 0493 - 59 - 9613  
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

## 感染症患者発生情報（週報）

## 埼玉県内情報 平成 29 年 第 28 週（平成 29 年 7 月 10 日～平成 29 年 7 月 16 日）

## 今週の注目される疾患

図は &lt;今週の注目される定点把握対象疾患の推移&gt; を参照

全数把握対象疾患では、一類及び二類（結核を除く）感染症の届出はなかった。三類感染症は、細菌性赤痢 1 人、腸管出血性大腸菌感染症 6 人の届出があった。四類感染症は、レジオネラ症 8 人の届出があり、前週（5 人）に引き続き多い状況にある（注目すべき疾患）。五類感染症は、アメーバ赤痢 1 人、急性脳炎 2 人、後天性免疫不全症候群 1 人、侵襲性インフルエンザ菌感染症 2 人、梅毒 4 人の届出があった。

定点把握対象疾患では、手足口病（2.95 5.42：図 1）の定点当たり報告数は前週より大きく増加し、県全体で警報開始基準値（5.00）を超えた。保健所別では、前週に引き続き全保健所管内で前週の定点当たり報告数を上回り、川越市（10.00）、朝霞（9.17）、幸手（8.22）保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では、1 歳からの報告が最も多く、1～3 歳で全報告数の 68.6% を占めている。ヘルパンギーナ（0.94 1.66：図 2）の定点当たり報告数は前週より増加した。保健所別では、川越市（0.63 3.75）保健所管内で大きく増加し、朝霞（3.67）保健所管内からの報告が多い。咽頭結膜熱（1.19 1.27：図 3）の定点当たり報告数は前週と同水準であり、多い状況が続いている。保健所別では、坂戸（1.67 3.00）保健所管内で大きく増加し、越谷市（2.13）保健所管内からの報告が多い。RS ウイルス感染症（0.37 0.50：図 4）の定点当たり報告数は 2 週連続して増加し、過去 4 年の同時期よりも多い。眼科定点報告対象疾患では、急性出血性結膜炎 2 人、流行性角結膜炎 28 人の報告があった。基幹定点報告対象疾患の報告はなかった。

## &lt;全数把握対象疾患の患者情報&gt;

一類感染症	報告なし	
二類感染症	報告なし（結核を除く）	
三類感染症	細菌性赤痢	1 人（病原体 <i>S. sonnei</i> 、推定感染地域 国外）
	腸管出血性大腸菌感染症	6 人（類型 患者 5 人、無症状病原体保有者 1 人） 血清型 O157 2 人、O26 2 人、O121 2 人）
四類感染症	レジオネラ症	8 人（病型 肺炎型 8 人）
五類感染症	アメーバ赤痢	1 人（病型 腸管アメーバ症）
	急性脳炎	2 人（病原体 不明 2 人）
	後天性免疫不全症候群	1 人（病型 無症状病原体保有者）
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 人
	梅毒	4 人（病型 早期顕症 期 2 人、早期顕症 期 1 人、 晩期顕症 1 人）

1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。

衛生研究所 感染症情報担当者会議（感染症疫学情報担当） TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613

e-mail: [p5349952@pref.saitama.lg.jp](mailto:p5349952@pref.saitama.lg.jp) URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ（URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>）で御覧になれます。



## 注目すべき疾患

### －レジオネラ症－

診断日を基準にした埼玉県及び全国の届出数を図1に示した。埼玉県では、28週は27週と同じ6人の届出があり、26週以前（6月以前）と比べ多い状況である。前年も同時期に患者数の増加が観察された（2016年27週7人、28週6人）。

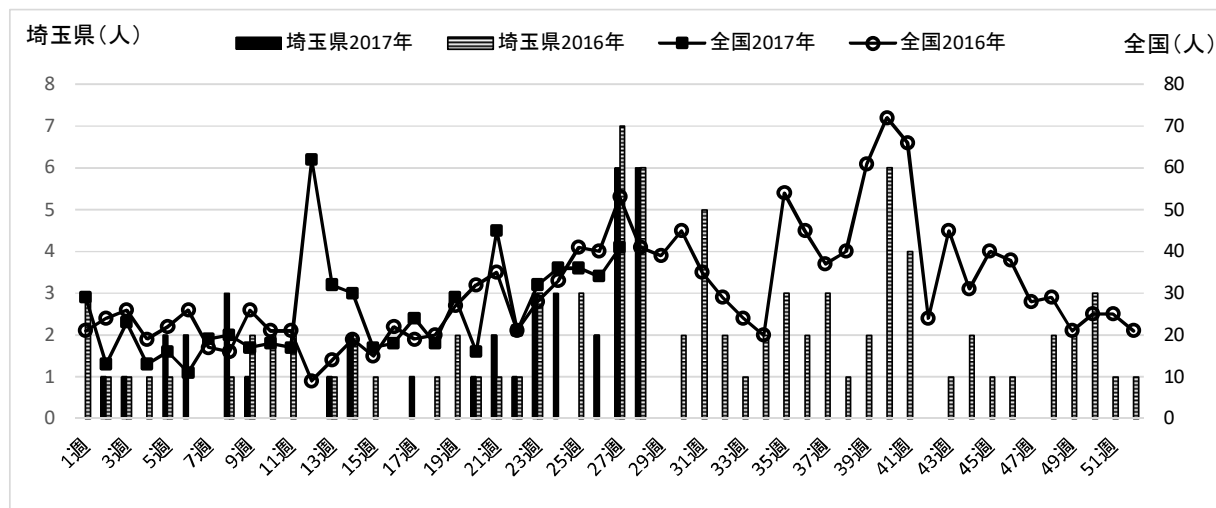


図1 レジオネラ症 診断週別届出数の推移 (2016年との比較)

2017年の1週から28週までに届出された患者38人の性比は男が女の6.6倍で、年齢は40歳以上に分布し、60歳代11人、70歳代10人で全体の55.3%を占めた(表1)。患者の職業は、運転手(6人)、建設業(3人)等が多かった。また、無職の17人は60歳以上であった(表2)。

表1 性年齢階級別届出数

年齢階級	男	女	総計
40歳代	4		4
50歳代	7	1	8
60歳代	11		11
70歳代	8	2	10
80歳代	3	2	5
総計	33	5	38

表2 報告患者の職業

職業	届出数
運転手	6
建設業	3
自動車整備工	1
配管工・解体業	1
電気関係	1
清掃員	1
介護職	1
事務職	2
不明	5
無職	17
総計	38

感染症発生状況(全数把握対象疾患)  
(第28週)

(2017年7月18日 15:00集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
<b>一類感染症</b>					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
<b>二類感染症</b>					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核*	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
<b>三類感染症</b>					
コレラ			腸チフス		1
細菌性赤痢	1	4	パラチフス		
腸管出血性大腸菌感染症	6	58			
<b>四類感染症</b>					
E型肝炎		10	東部ウマ脳炎		
ウエストナイル熱			鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)		
A型肝炎		11	ニパウイルス感染症		
エキノコックス症			日本紅斑熱		
黄熱			日本脳炎		
オウム病			ハンタウイルス肺症候群		
オムスク出血熱			Bウイルス病		
回帰熱			鼻疽		
キャサナル森林病			ブルセラ症		
Q熱			ベネズエラウマ脳炎		
狂犬病			ヘンドラウイルス感染症		
コクシジオイデス症			発しんチフス		
サル痘			ボツリヌス症		
ジカウイルス感染症			マラリア		
重症熱性血小板減少症候群			野兔病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱			レジオネラ症	8	38
つつが虫病			レプトスピラ症		1
デング熱		8	ロッキー山紅斑熱		
<b>五類感染症</b>					
アメーバ赤痢	1	29	侵襲性肺炎球菌感染症		84
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		5	水痘*		9
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		30	先天性風しん症候群		
急性脳炎	2	27	梅毒	4	110
クリプトスポリジウム症			播種性クリプトコックス症		1
クロイツフェルト・ヤコブ病		3	破傷風		1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		12	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
後天性免疫不全症候群	1	20	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		7
ジアルジア症			風しん		4
侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	11	麻しん		4
侵襲性髄膜炎菌感染症			薬剤耐性アシネトバクター感染症		4
<b>指定感染症</b>	該当疾患は無し				

水痘\* : 患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計	3	2		

累計は診断日で集計

\* 結核は月単位で集計、別に掲載します。

## 結核届出状況(6月分)

6月の届出総数は、患者77人、疑似症患者1人、無症状病原体保有者34人の計112人で、患者数は前月より減少し、前年の同月と比較しても少なかった。無症状病原体保有者の数は、前月及び前年の同月とほぼ同水準であった。

表1 診断月別の届出数の推移(2016年6月～2017年6月)

	2016年*							2017年							累計**
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
<b>総計</b>	126	127	129	132	119	82	111	101	104	103	100	120	112	640	
<b>年齢階級</b>															
10歳未満	5	3	2	7	3	1	4	0	2	2	4	5	2	15	
10歳代	2	1	3	1	2	1	0	1	1	2	0	3	0	7	
20歳代	13	19	11	7	11	9	9	7	7	7	10	9	9	49	
30歳代	8	9	14	14	7	7	10	12	5	6	7	14	8	52	
40歳代	13	14	17	10	10	10	13	6	15	10	7	13	8	59	
50歳代	14	14	13	24	19	13	17	8	6	9	13	8	14	58	
60歳代	17	16	20	20	17	9	18	25	21	18	12	19	19	114	
70歳代	20	14	25	19	27	11	20	20	18	26	18	18	20	120	
80歳以上	34	37	24	30	23	21	20	22	29	23	29	31	32	166	
<b>性</b>															
男	81	75	72	81	72	45	77	70	61	62	64	75	66	398	
女	45	52	57	51	47	37	34	31	43	41	36	45	46	242	
<b>類型</b>															
患者	89	88	92	100	74	55	64	75	76	76	67	89	77	460	
感染症死亡者の死体	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
感染症死亡疑い者の死体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
疑似症患者	0	1	0	0	0	0	3	1	0	2	2	0	1	6	
無症状病原体保有者	36	38	37	32	44	27	44	25	28	25	31	31	34	174	
<b>病型</b>															
肺結核	60	73	74	75	56	38	50	55	57	57	50	63	65	347	
肺結核及びその他の結核	4	3	2	5	5	3	2	5	4	6	6	8	3	32	
その他の結核	26	12	16	20	14	14	12	15	15	13	11	18	9	81	
疑似症患者	0	1	0	0	0	0	3	1	0	2	2	0	1	6	
無症状病原体保有者	36	38	37	32	44	27	44	25	28	25	31	31	34	174	

\*:2016年の届出数は暫定値

\*\* :2017年1月からの累積届出数

6月に診断された112人を病型別にみると、肺結核では10歳未満及び10歳代を除く年齢階級から65人の報告があり、80歳以上が25人と特に多く38.5%を占めた。無症状病原体保有者では10歳代を除く年齢階級から届出があった。

表2 年齢階級別病型別の届出数(2017年6月分)

	病 型					総計
	肺結核	肺結核及び その他の結核	その他の結核	疑似症患者	無症状病原体 保有者	
<b>総計</b>	65	3	9	1	34	112
<b>年齢階級</b>						
10歳未満	0	0	0	0	2	2
10歳代	0	0	0	0	0	0
20歳代	4	1	1	0	3	9
30歳代	5	0	0	0	3	8
40歳代	4	0	1	0	3	8
50歳代	7	0	1	0	6	14
60歳代	12	0	2	0	5	19
70歳代	8	1	2	1	8	20
80歳以上	25	1	2	0	4	32



感染症発生動向調査週情報 報告患者数 年齢別 (第28週 平成29年7月10日～平成29年7月16日)

	年齢別																			
	合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ #1	10	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	1	2	1	2	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	78	15	20	26	9	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	200	2	7	25	22	40	40	31	13	9	5	-	4	-	2	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	490	1	1	26	29	56	67	78	60	55	31	29	41	2	14	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	908	1	65	133	96	112	88	71	53	40	37	35	94	17	66	-	-	-	-	-
水痘	70	-	2	6	6	4	3	9	5	11	7	9	8	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	851	4	72	304	177	103	82	46	21	8	9	7	6	1	11	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	29	-	-	5	2	3	4	1	4	3	3	2	1	-	1	-	-	-	-	-
突発性発しん	112	2	29	70	9	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	261	-	16	76	61	47	32	16	5	3	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	56	-	-	7	3	5	7	9	8	2	3	3	7	1	1	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	28	-	-	1	-	1	3	-	1	-	-	-	1	-	6	3	4	3	2	3
細菌性髄膜炎 #2	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上			
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ 表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く



# 全国・関東情報 第 26 週

( 6月26日～7月2日 )

平成29年7月19日

インフルエンザの定点当たり報告数は第17週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は沖縄県(8.14)、鹿児島県(0.92)、岩手県(0.40)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は15例と前週と比較して増加し、8道府県から報告があった。

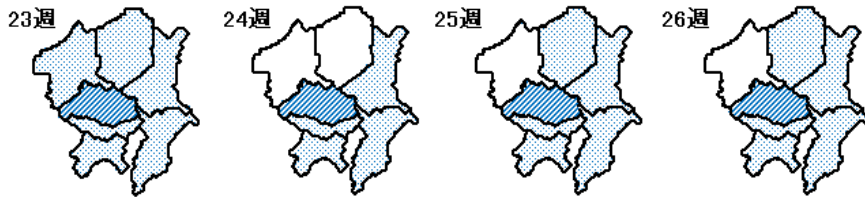
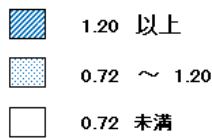
RSウイルス感染症の報告数は853例と増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約75%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は北海道(2.39)、鹿児島県(2.22)、山梨県(2.17)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は鳥取県(7.00)、山形県(4.83)、大分県(4.56)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は大分県(10.75)、香川県(10.07)、宮城県(9.03)である。水痘の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は滋賀県(1.63)、宮崎県(1.28)、福島県(1.22)である。手足口病の定点当たり報告数は第13週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は高知県(15.13)、鳥取県(14.42)、滋賀県(9.13)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別の上位3位は山形県(1.37)、石川県(0.45)、群馬県(0.36)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は長野県(1.80)、鹿児島県(1.60)、新潟県(1.49)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位2位は青森県(1.50)、石川県(0.60)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は2週連続で減少した。23道府県から52例報告があり、年齢別では0歳(6例)、1～4歳(28例)、5～9歳(13例)、10代(2例)、20代(1例)、30代(1例)、70歳以上(1例)であった。

## <関東情報>

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は、埼玉県(1.22)からの報告が多い。

### 咽頭結膜熱



		平成29年 26週								
		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	1,012	92	8	3	3	19	28	17	14
	定点当たり	0.20	0.06	0.07	0.04	0.03	0.07	0.13	0.04	0.04
RSウイルス感染症	報告数	853	244	14	10	10	38	27	76	69
	定点当たり	0.27	0.26	0.19	0.21	0.17	0.24	0.20	0.29	0.32
咽頭結膜熱	報告数	2,925	996	76	51	33	197	150	288	201
	定点当たり	0.93	1.04	1.01	1.06	0.57	1.22	1.12	1.10	0.93
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	9,559	3,316	260	90	218	636	507	826	779
	定点当たり	3.03	3.48	3.47	1.88	3.76	3.95	3.78	3.15	3.61
感染性胃腸炎	報告数	19,109	5,420	320	109	339	1,029	682	1,633	1,308
	定点当たり	6.05	5.68	4.27	2.27	5.84	6.39	5.09	6.23	6.06
水痘	報告数	1,430	483	37	11	24	93	76	132	110
	定点当たり	0.45	0.51	0.49	0.23	0.41	0.58	0.57	0.50	0.51
手足口病	報告数	11,159	1,677	23	20	80	185	220	620	529
	定点当たり	3.53	1.76	0.31	0.42	1.38	1.15	1.64	2.37	2.45
伝染性紅斑	報告数	351	123	5	5	21	34	3	29	26
	定点当たり	0.11	0.13	0.07	0.10	0.36	0.21	0.02	0.11	0.12
突発性発しん	報告数	1,788	593	31	30	43	110	73	176	130
	定点当たり	0.57	0.62	0.41	0.63	0.74	0.68	0.54	0.67	0.60
百日咳	報告数	47	7	1	-	-	2	3	-	1
	定点当たり	0.01	0.01	0.01	-	-	0.01	0.02	-	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	2,948	518	25	5	23	81	122	131	131
	定点当たり	0.93	0.54	0.33	0.10	0.40	0.50	0.91	0.50	0.61
流行性耳下腺炎	報告数	1,683	423	21	16	57	78	54	82	115
	定点当たり	0.53	0.44	0.28	0.33	0.98	0.48	0.40	0.31	0.53
急性出血性結膜炎	報告数	9	3	1	-	-	2	-	-	-
	定点当たり	0.01	0.01	0.06	-	-	0.05	-	-	-
流行性角結膜炎	報告数	550	250	23	18	8	44	42	31	84
	定点当たり	0.79	1.20	1.35	1.50	0.57	1.10	1.20	0.79	1.65
細菌性髄膜炎 #2	報告数	7	3	-	-	-	1	-	2	-
	定点当たり	0.01	0.04	-	-	-	0.10	-	0.08	-
無菌性髄膜炎	報告数	20	3	-	-	-	-	-	2	1
	定点当たり	0.04	0.04	-	-	-	-	-	0.08	0.10
マイコプラズマ肺炎	報告数	104	14	3	1	3	1	4	1	1
	定点当たり	0.22	0.17	0.23	0.14	0.38	0.10	0.44	0.04	0.10
クラミジア肺炎 #3	報告数	6	2	-	-	-	-	-	2	-
	定点当たり	0.01	0.02	-	-	-	-	-	0.08	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	52	2	-	-	-	-	1	-	1
	定点当たり	0.11	0.02	-	-	-	-	0.11	-	0.10

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-0.00)

## 感染症発生動向調査 2017年

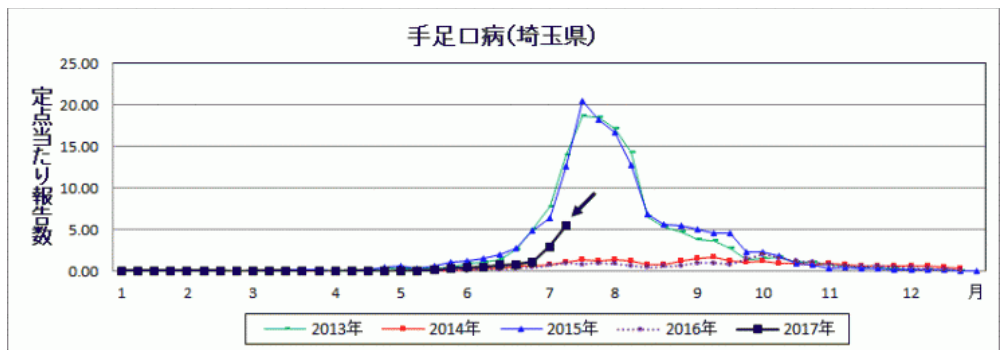
- [感染症の流行状況 2017年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第5週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第6週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第7週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第8週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第9週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第10週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第11週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第12週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第13週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第14週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第15週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第16週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第17週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第18週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第19週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第20週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第21週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第22週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第23週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第24週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第25週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第26週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第27週](#)
- [感染症の流行状況 2017年 第28週](#)

## 感染症の流行状況 2017年 第28週

2017年第28週（平成29年7月10日～7月16日）の要点 平成29年7月19日

**手足口病**の定点当たり報告数は、前週より大きく増加しました。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報の掲載ページへ](#)
- [麻疹に関する情報の掲載ページへ](#)
- [風しんに関する情報の掲載ページへ](#)



### 感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
<a href="#">インフルエンザ</a>	→	★	<a href="#">伝染性紅斑(りんご病)</a>	↓	★
<a href="#">RSウイルス感染症</a>	↑	★	<a href="#">突発性発しん</a>	→	★
<a href="#">咽頭結膜熱(プール熱)</a>	→	★★★	<a href="#">百日咳</a>	→	★
<a href="#">A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</a>	↓	★★	<a href="#">ヘルパンギーナ</a>	↑	★★
<a href="#">感染性胃腸炎</a>	↓	★	<a href="#">流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)</a>	→	★
<a href="#">水痘(みずぼうそう)</a>	→	★	<a href="#">急性出血性結膜炎</a>	→	★
<a href="#">手足口病</a>	↑	★★	<a href="#">流行性角結膜炎</a>	↓	★★

\*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。\*2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) \*3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン